

第3回 SPARC Japan セミナー2016

「科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて：オープンサイエンス再考」

開会挨拶/概要説明

梶原 茂寿

(北海道大学附属図書館)



梶原 茂寿

2014年より、北海道大学附属図書館本館に勤務。学術システム課システム管理担当で、図書館情報システム及びネットワークの管理と機関リポジトリを担当。2015年、2016年SPARC Japanセミナー企画WGメンバー。



第3回 SPARC Japan セミナー2016「科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて：オープンサイエンス再考」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

第3回セミナーで目指すもの

今年度の SPARC Japan セミナーの年間テーマは、「オープンサイエンス時代の文献とデータの流通：科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて」でした。

第1回セミナー「オープンアクセスへの道」では、文献に焦点を当て、グリーンオープンアクセスとワールドオープンアクセスの関係性や担うべき役割について議論がなされ、国内研究者の APC 支払いの捕捉、SCOAP³ モデルの発展の必要性などが確認されました。

第2回セミナー「研究データオープン化推進に向けて：インセンティブとデータマネジメント」では、データの流通に焦点を当て、データサイテーション、データジャーナル、データオーナーシップなどの研究者へのインセンティブの在り方、それを支える研究データの管理の具体的な方策などについて議論がなされました。

そして、この第3回セミナーでは第1回・第2回のセミナーを受けて、1年間の SPARC Japan セミナーを総括し、オープンサイエンスについてさまざまな方面から再考してみます。オープンサイエンスの先にある、科学的知識創成のための新たな標準基盤について、皆さまと共に考えたいと思います。

セミナーの流れ

本セミナーでは、午前二つの基調講演を行い、午後は五つの発表を行います。その後、パネルディスカッションということで、長丁場になりますが、皆さまにも活発に発表、質問などしていただけるようになっていますので、ぜひご参加いただければと思います。